

人物往来

全身全霊で次の世代へ

平山 郁夫氏 (旧中39回)

1972年に壁画が発見された高松塚古墳。翌年から現場責任者として模写に携わり、西壁女子群像を担当した画家平山郁夫さんに今の思いを聞いた。

－当時の思い出は。

(石室は)押し入れに入るような感じ。二人背中合わせて調査した。消毒のホルマリンのにおいでいっぱい。暗くて色の明るさが分からず苦労した。たとえば白だけでも十種類ぐらい作り、色を合わせていった。

－第一印象は。

長い間人に見られていないフレッシュな感じ。絵巻物程度の大きさと稚拙だが美しかった。頭をそろえて足元で奥行きを出すなど遠近法の工夫もあった。埋葬が済むと二度と(人)に見られないのに一生懸命描いたのが分かる。襟に日本的感性が表現され、渡来人の二世が描いたのかなと夢想しながら模写した。

－壁画劣化について。

形ある物は必ず滅す。これは宿命だ。現地保存が望ましいが、壁画を守るためにはやむを得ない。私は模写の時以来見ておらず、国の歴代担当者も順に退職していった。文化庁は同じ人にモニターなどで定点観測させ、もっと早い段階で手を打つべきだった。

－石室解体には。

壁画は約1300年間残ったが、外の空気が入り劣化した。解体は深海魚をいきなり地上に揚げるようなもの。人智を超えることが起こり得ることを覚悟してほしい。次世代に美しい状態で残せるよう、(担当者は)全身全霊で作業してほしい。成功を期待している。(中国 07. 4. 6)

日本水泳連盟が特別功労賞表彰

横地森太郎氏 (高6回・ポルトガル元代表監督)

日本水泳連盟は5日、広島県坂町出身でポル

トガルの元代表監督の横地森太郎さん(71)を特別功労者として表彰した。

ポルトガル在住の横地さんは長年日本代表選手のエ州遠征などに同行、裏方としてサポートした功績が評価された。同日に千葉県国際総合水泳場で開幕した日本選手権の開始式で表彰され、古橋広之進名誉会長らから花束や盾を受け取った。

横地さんは修道高、早大と進み、1958年に連盟推薦でポルトガルに指導者として招かれた。以来、五輪の監督を5度努めるなどポルトガルチームの指導に力を注いだ。

横地さんは「名誉ある賞をいただき、恥ずかしい思いもあるが、今後も日本チームのために喜んで協力していきたい」と述べた。連盟の特別功労者は横地さんで4人目。(中国 07. 4. 6)

都市活性化へ経済界連携

山本 一隆氏 (高14回・中国新聞副社長)

広島経済同友会(755人)の新体制がスタートした。昨年、設立50周年を迎え、今年は次世代に向けて新たな一歩を踏み出す。新体制が重点課題に挙げる都市の活性化や道州制への対応などについて、同友会はどのように取り組もうとしているのか。筆頭代表幹事に就任した山本一隆中国新聞副社長に聞いた。

－昨年、設立50周年を迎えました。今後、同友会が果たすべき役割は何でしょうか。

この50年、設立当初の思いがずっと引き継がれている。一つは経営にかかわる人材の研修の場。もう一つは、地域への提言が大きな役割で、脈々とつながっている。今年は次の100年に向けての第一歩になる。方向性を定める重要な時期だ。地域が元気になるような提言をしていきたい。

－筆頭代表幹事として何に取り組めますか。

どうしてもやりたいのは広島市の都市としての活性化。そのために「広島地域活性化委員会」を新設した。今、広島市中心部では課題がたくさん出てきている。JR広島駅周辺の再開発をはじめ広島市民球場(中区)の跡地利用、中心部の道路整備などだ。

委員会では、まず何をやるべきかという優先順位を付けたい。同友会には750人を超えるメンバーがおり、アンケートなどを通じて経済人が考える順位付けを示したい。それを行政に積極的に提言し、実現の方向へ一歩でも進めるように後押ししていくということが私の一番の思いだ。

－広島市は他の政令指定都市に比べて元気がないといわれます。なぜでしょうか。「札仙広福」といわれる札幌、仙台、広島、福岡の四政令市の同友会は年1回、会合を持っており、情報交換をしている。よく広島は元気がないといわれるが、最近の景気回復の局面の中、企業の景況感や設備投資、雇用などを見ると、他の政令市よりもいい。

問題は、なぜ広島に閉塞感があるかということだ。それは都市問題に大きな原因がある。広島市の都市開発が遅れている一因は、他の三政令市に比べ、県と市、行政と経済界の連携があまりにも希薄。福岡がなぜ元気に見えるかということ、非常に産学官の連携がいいからだ。

－行政とどのように接していきますか。

行政を巻き込んで、まちづくりを進めるため、積極的に一緒に歩むことができる方向がないものかを探っていきたい。そのためには経済界自身の連携がまず必要だ。他の経済団体と定期的な協議会を開きたい。意見を交わし、経済界全体の総意として行政に話をすればインパクトが違うのではないか。連携の力で物事を動かすことができると思っている。

－新体制では道州制への対応も重点課題に挙げています。どう取り組みますか。

国、地方とも財政が厳しい中で、これからは水平分業して各地域で責任を持って行政を行う必要がある。道州制は一つの大きな選択肢。中四国の九県の同友会に声を掛けて、道州制を議論した結果、とりあえず中国と四国は別々で議論しようということになった。

まず地域の視点で道州制の在り方を考えるため「道州制委員会」を新設した。さらに、中国五県を一つの州とした場合の各地域の役割分担を議論し、中国州のマスタープランをつくりたい。夢を語れるビジョンづくりを進めていく。

(中国 07. 4. 19)

NTT社長に三浦氏

三浦 惺氏 (高15回・NTT社長)

NTTは18日、三浦惺副社長(63)が社長に昇格する人事を固めた。和田紀夫社長(66)は代表権のない会長に就く。同日、総務省などに伝えた。和田氏は社長就任5年で、光ファイバー回線が普及期に入り、事業構造の転換に向けた基盤が整ったと判断。次期通信網の整備を新体制に委ねる。6月下旬の株主総会後の取締役会の決議を経て正式に決定する。

NTT社長には1985年の民営化以降、事務系と技術系が交互に就いてきた。今回は事務系が二代続き、たすき掛けの慣例が崩れる形になる。

NTTは2010年までに光回線を3千万回線敷設する中期経営戦略を策定、三浦氏は同戦略の推進責任者として和田氏を補佐してきた。和田氏は2000年以降、空席になっていた会長職に就き、国際戦略などを担当する。

NTTは同時にグループの首脳人事も固めた。NTT東日本、西日本、NTTドコモ、NTTコミュニケーションズの現社長はいずれも留任。NTT本体以外のグループ主要企業で社長が交代するのはNTTデータのみとなる。主要グループ企業のトップを温存して、NTT新社長の三浦氏を支える体制を敷く。(日経 07. 4. 19)

不正解明へ真価問われる「有尽無報」

林 正夫氏 (高11回・広島県議会議長)

藤田雄山知事後援会の政治資金不正事件への対応に、どんな姿勢で臨むのか。「県民の信頼回復に全力を尽くす。公平、公正に中立の立場で務めたい」。9日の就任会見では、言葉を選んだ。知事に最も近いとされるのを意識してか、「中立」を強調した。

8年前、初めて議長選の候補に名乗りを上げた。当時所属していた最大会派・自民党議員会の候補選び。「ガラス張りの議会に」。二期八年を務め、続投を狙った当時の桧山俊宏議長に挑んだ。会派内の投票の結果、三票差で敗れた。

そして4年前。新会派を旗揚げし、別の自民

党系の新会派の候補を推し12年ぶりの議長交代を実現した。塗り変わった勢力図の下、歩調を合わせる会派の信頼を保ち自身も上り詰めた。「より民主的な議会にする。この気持ちは8年前から変わらない」。事件の真相解明を含め今後、その真価が問われ始める。

祖父、父とも県議。父も議長を務めたが、もとは政治家志望ではなかった。大学卒業後は実業界に身を置いた。転機は1983年、広島市が政令市に移行してから初の県議選。青年会議所の仲間たちに中区からの立候補を要請され、仲人で知事の実父、故藤田正明参院議員から「『有尽無報(尽くすありて報いなし)』。このつもりなら、やりなさい」と助言を受けた。後押しという言葉は今も座右の銘とする。

中学から本格的に水泳を始め、修道高3年の時には100メートル自由形で全国3位。大学水泳部では主将を務めた。「プランターで花を育て、自宅の屋上や玄関を彩るのが楽しい」。中区で妻、二男夫婦、孫二人と暮らす。

(中国 07. 5. 11)

もっとサービス向上

大田 哲哉氏(高11回・㈱広島電鉄代表取締役社長)

広島都市圏を走る路面電車の乗客数の減少傾向に歯止めがかかりつつある。昨年度は2年連続で前の年度を上回った。運営する広島電鉄の大田哲哉社長は「低床のLRT(次世代型路面電車)を増やすなど、乗ってみようと思わせるサービスを続けてきた。その効果が表れた」と話す。

今後はLRTで「ベビーカーだけでなく、自転車も乗せられるようにしたい」と意気込む。天然ガス車やノンステップ車両を導入してきたバスの乗客数も、昨年度は都市圏は前年度比プラスとなった。「通勤は日常生活の一部。サービス向上が乗客数増につながる」と手応えを感じているようだ。

(日経 07. 5. 25)

広島県議、 広島市議当選おめでとうございます。

平成19年4月8日投票された県議選(定員66)と広島市議選(定員55)で修道OB24名の当選が出た。当選された方々は次のとおり。

(敬称略)

広島県議

広島市中区	林 正夫(高 11)	自現
	日下 美香(大人 8)	公現
東区	緒方 直之(高 44)	自現
南区	中原 好治(高 33)	無現
西区	砂原 克規(高 24)	自現
	山木 靖雄(高 14)	自現
安佐南区	栗原 俊二(大法 4)	公現
佐伯区	富永 健三(高 20)	自現
	蔵本 健(高 43)	無新
呉市	城戸 常太(新中14)	自現
山県郡	野村 常雄(高 12)	無新
東広島市	井原 脩(新中21)	無新
		12名

広島市議

東区	橋本 昭彦(短 4)	無現
西区	原 裕治(大商13)	公現
	豊島 岩白(大商33)	無新
安芸区	三宅 正明(高 43)	無新
安佐南区	土井 哲雄(高 6)	自現
	谷口 修(院在)	自現
	田尾 健一(短 12)	社現
安佐北区	今田 良治(大商6)	自現
	若林 新三(大商15)	無現
	増井 克志(高 9)	無現
	木島 丘(高 4)	自現
佐伯区	児玉 光禎(高 12)	自現
		12名